

## AI技術の現在 と可能性

# 人工知能の進化はどこまで続く？

最近、AI (Artificial Intelligence 人工知能) という言葉を耳にすることがとても多くなりましたね。以前からAIは我々の生活のいろんなところで利用されていましたが、去年 (2022年) は画像生成AIやチャットAIなどが続々と公開され、これまでできなかったようなことがどんどんできるようになっています。今回は、今話題になっている画像生成AIやチャットAIがどのようなものなのか、利用に際しての注意点についてみていきたいと思います。

## 画像生成AIとは？

2022年に「Midjourney」「Stable Diffusion」といった無料で使える**画像生成AI**のサービスが公開されました。これらは描いてほしい絵をキーワード指定すると、キーワードにあった画像が生成されるというものです。例えば**Stable Diffusion**で「春の公園」と指定すると数秒の間に右のような4枚の画像を生成してくれます。必ずしも希望どおりの画像が生成されるわけではありませんが、何度も生成させることができます。

ただ、単純な言葉だけではなかなか思いどおりの絵を生成することは難しいようで、キーワードを英語で入れる、特定の単語を含ませる、などのコツがあるようです。このキーワードはプロンプトと呼ばれていますが、別名「呪文」とも呼ばれています。言葉だけで思いどおりの絵をかかせる、まさに魔法使いの呪文のようですね。

画像生成は**Stable Diffusion**のサイトで簡単に試すことができます。またLINE等でも同様のサービスがありますので、一度試してみたいはいかがでしょうか？  
[Stable Diffusion Online \(https://stablediffusionweb.com/\)](https://stablediffusionweb.com/)



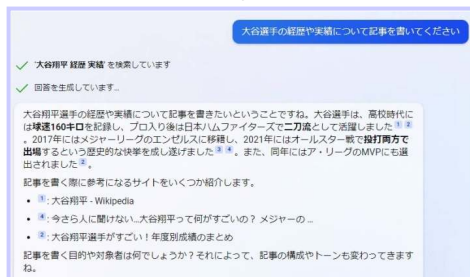
## チャットAIとは？

2022年11月に **ChatGPT** が公開されて、自然な会話のようなやりとりができることが話題を呼び、短期間で多くのユーザーを獲得しました。この動きを受けて、MicrosoftはBingにAIチャット機能を搭載、Googleも会話型AIサービス「**Bard**」を発表するなど、ここにきて**チャットAI**は盛り上がりを見せています。

大きな特徴は自然な文章でのやりとりが可能と、1回の質問で終わるのではなく、これまでのやりとりをふまえて回答してくれるところです。普通に質問に回答を返してくれるのはもちろんですが、その他にも物語やキャッチコピーの作成、文章の要約、プログラムの生成など、いろいろなことができます。

現在、**ChatGPT** はユーザー登録すれば無料で使えますし、**Bing AI** も順番待ちリストに登録すれば数日後には使えるようになるようです。一度試してみたいはいかがでしょうか？

### ChatGPT



### Bing AI チャット



## 画像生成AIを利用する際の注意点

### ■著作権の問題

AIが生成した画像には著作権が発生するのでしょうか？原則としてはAIが生成した画像には著作権は発生しないことになっていますが、画像生成にあたって、人がAIに詳細な指示をした場合は作成者に著作権が発生する可能性もあります。ただどこまでの指示で著作権が発生するか、その線引きははっきりしていません。またAIが著作権のある画像素材を学習して、生成された画像がその画像素材に似ていた場合はその著作権を侵害する可能性があります。



画像生成AIと著作権についてはまだ法的な基準やルールは確立されておらず、生成された画像を商用利用や再配布を行う場合には法的な問題が生じる可能性があるため注意が必要です。

## チャットAIを利用する際の注意点

### ■信頼性

チャットは大抵、何らかのもっともらしい答えを返してきますが、その回答は正しくないことがあります。今後回答の精度が高まっていくのかもみませんが、現状では得られた回答については、むやみに信用せずに真偽を確かめる必要があるでしょう。またChatGPTは現時点では学習したデータが2021年までのものなので、2022年以降の情報は反映されていません。



### ■セキュリティ

チャットAIは質問内容を学習データに使用するため、チャットAIに質問した情報がチャットAIの回答として使われる可能性があります。外部に公開してはいけないような個人情報や機密情報を含んだ質問をすると、その情報がチャットAIから漏洩する可能性もありますので、そのような情報を問い合わせるのはやめておいた方がよいでしょう。



## 開発室から



2023年は、桜の開花が平年よりも早いそうですね。ところで桜の「開花予想」と言う言葉に比べ「満開予想」と言う言葉をあまり聞かないのはなぜなのでしょう？「開花」と言っても、たった数輪の花が咲いただけでは、桜の美しさを感じることはできないでしょう。「満開予想」や「満開前線」が、当たり前の言葉になることを期待するのはヘンですか？

